

貴族院 帝國議會 華族世襲財產法改正法律案特別委員會議事速記錄第二號

大正四年十一月二十一日(火曜日)午前十時九分開會

○委員長(公爵德川慶久君) 是ヨリ開會イタシマス、今司法大臣モ直キニ見エラレル筈アリマスカラ、前回ニ引續キ御質問ヲ願ヒマス

○政府委員(高橋作衛君) 本案ハ洵ニ色々ミ入ルタ民法上ノ問題其他ノ複雜ナル問題ガゴザイマス、ソレニ付キマシテ此案ヲ起草イタシマシタ際ニ主査トナッタル法制局參事官馬場鍊一、司法省參事官山内確三郎、此兩人ハ餘程詳細ノ點マテ調べテ居リマスノデアリマスカラ、御質問ノ中ニ民法ノ關係、其他ノ點ニ於キマシテ微妙ノムガシイ事ニ至リマシタラバ御質問ニ對シテ兩人ニ説明ヲサセルト云フコトガ、能ク起草ノ精神ガ分ルニト存ジマス、若シ御許シヲ得マスレバ此所ニ出席ヲ御許シヲ願ヒ、又場合ニ依ツテ必要ノ場合ニ於テハ説明ヲナスト云フコトノ御許シヲ願ヒタイト思ヒマスカラ、チヨウト申上ゲテ置キマス

○委員長(公爵德川慶久君) 御誥リヲシマスガ、唯今政府委員カラ説明ノ爲ニ御兩君ニ出席ヲサセクラドウカト云フコトヲ言ハレマシタガ、許可シテ差支ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(公爵德川慶久君) ソレデハ御出席ヲ願ヒテ……

○富井政章君 質問イタシテ宣シウゴザイマスカ

○委員長(公爵德川慶久君) 宣シウゴザイマス

○富井政章君 私ハ現行世襲財產法ノ今日マデニ生ジタル結果ノ如何ハ實ハ能ク知ラナイノデアリマス、ソレ故ニ此案ヲ見マシテモ種々ノ疑問ヲ起スノデアリマシテ、據ドコロナク今少シ御質問ヲ致シタイトイ思ヒマス、先ダ第一ニ伺ヒタコトハ、是ハ左マテ重要ナ事デアリマセヌケレドモ、現在有爵者何人ノ中デ世襲財產ヲ設定シテ居ル人ハ何人アリマスカ、ソレヲ伺ヒタイ、爵ニ依ツテ細カニ別ケテアル表デモアレバ尙ホ結構デアリマス、何爵者何人ノ中何人トカ、又其財產ノ種目ニ關スル分類ガアレバ尙ホ結構デアリマス、即チ土地ダケヲ世襲財產トナシタ場合、土地ト有價證券トノ割合ハ斯ウ云フ風ニナッテ居ルトカ云フヤウナ關係ハ少シムツカシイ事デハアリマスケレドモ、サウ云フヤウナ事が分ル表デモ出來テ居レバ、一見スルコトガ出來レバ尙ホ結構デアリマス、今一ツ伺ヒテ置キタイ事ハ此今度ノ改正案ノ規定中ニ於テ最モ政府が重キヲ置イテ居ル箇條ハ世襲財產廢止ノ規定デアラウト思ヒマスガ、是ガ理由書ニ謂ハユル時勢ノ進運ニ伴フトカ何トカ云フヤウナコトガアッタ思ヒマスガ、即チ此改正ヲ行ハネバ今日ノ時勢ニ適應シナイ、現行法ガ時勢ニ適應シナイト云フコトデアラウト思フ、ソレハ詰リ餘ニ多クノ財產ヲ世襲財產トシテ、サウシテ負債ナドガ生ジテ債權者ニ支辨スルコトが出來ナイ、世襲財產ノ僅カヲ解除スレバ其償却モ出來ル、却ツテ華族ノ體面ヲ保ツコトが出來ルデアラウ、サウ云フ趣意カラ此廢止ノ規定が出來タノデアラウト察スルノデアリマス、今申上ゲタヤウナ場合カ果シテ澤山生ジテ居ルノデアルカ、マサウ云フ事ニモナレバ便利デアラウト云フ位ノコトデアルカ、或ハ今日實際サウ云フ場合カ澤山生ジテ居ツテ、ドウシテモ斯ウ云フ變通ノ

遂が開ケネバ非常ニ困ルト云フノデアルカ、サウ云フ邊モ伺ヒタイノデアル、サウ申スト何

ダカスウ具體的ノ事ヲ強ヒテ穿ツテ知リタイヤウニ聞エマスガ、サウ云フ趣意デハナイノデ、併シサウ云フ事ガ政府ニ於テモマア縱令具體的テナクトモ言ヒニクイ事デアルカラ困ルト云フヤウナコトカモ知レマセヌカラ、ソレハ強ヒテハ求メマセヌ、私ノ伺ヒタイ事ハ解除ノ途ヲ開カネハ困ルト云フコトハ今申シタヤウナ場合ダケデアルノカ、即チ負債ガアツテ世襲財產デナイ財產ヲ以テハ支辨スルコトが出來ナイ、世襲財產ノ何程ガ解除スレバ其償却が出来ルト云フヤウナ場合ダケデアルカ、或ハ外ニモ困ルト云フヤウナ場合ガアルノデアルカ、例ヘバ相續ノ場合ニ相續税ヲ納付セネバナラスガ、他ノ財產デハ其相續税ガ拂ヘナイ、世襲財產ノ何程カ割ケハ其納付が出來ルト云フヤウナ場合モ或ハアルノカト察スルノデアリマスガ、具體的ニ誰某ニ就テサウ云フ場合が起ルトカ云フヤウナコトヲ決シテ聞キタイノデコトニナシタノデアリマスカ、其邊ヲ一應伺ヒタイ

○政府委員(高橋作衛君) 唯今ノ御話ノ第一、世襲財產ヲ設定シテ居ル人ノ數、又世襲財產トシテノ動産不動産、又土地ト有價證券トノ割合ト云フコトニ付テ、唯今五十八人、四十一バーセント、子爵三百七十八人ノ中百八十八人、四十バーセント、御答ノ出來マスル部分ダケ申上ゲマスルガ、少シ材料ガ古イカモ知レマセヌ、大正三年十二月三十一日現在ノ調ニ依リマスト云フト、公爵總數が十七人ノ中、十一人、其割合ダ六十四バーセントニナシテ居リマス、ソレカラ侯爵三十七人ノ中二十人、五十三バーセント、ソレカラ伯爵百人ノ中四十人、四十バーセント、子爵三百七十八人ノ中百五十八人、四十一バーセント、ソレカラ男爵三百八十七人ノ中二十九人、七バーセンタク今少シ御質問ヲ致シタイトイ思ヒマス、先ダ第一ニ伺ヒタコトハ、是ハ左マテ重要ナ事デアリマセヌケレドモ、現在有爵者何人ノ中デ世襲財產ヲ設定シテ居ル人ハ何人アリマスカ、ソレヲ伺ヒタイ、爵ニ依ツテ細カニ別ケテアル表デモアレバ尙ホ結構デアリマス、何爵者何人ノ中何人トカ、又其財產ノ種目ニ關スル分類ガアレバ尙ホ結構デアリマス、即チ

トテアリマス、即チ九百十九人ノ中二百五十八人設定シテ居ル譯ニナッテ居リマス、是ハ少シ材料ガ古ウゴザイマスカラ、新シイ材料ヲ覓尋テ後ニ差上ゲマス、ソレカラ世襲財產ノ調ハ不動產ノ方ハ宅地田畠山林原野ヲ入レマシテ段別デ申シマスト八万六千八百八段ト云フコトニ出ア居リマス、地價ハ六百九万四千九百一十二圓八十一錢七厘……

○富井政章君 観窮版デ願ヒマセウ

○政府委員(高橋作衛君) 是ハ覓窮版ニシテ差上ゲマシタ方が宜シウゴザイマセウ、ソレカラ第一ノ御尋テゴザイマス、是ハ仰ヒシヤル如ク第十七條ガ主ナル改正デゴザイマス、之ヲ必要トスル事實ハドノヤウナモノデアルカ、斯ウ云フ御尋テゴザイシタ、第一ニ此十七條ノ中ニ書イテアリマスル確實有利ナル世襲財產ニ換ヘル、是ハ實際上土地ナドヲ有ツテ居リマシテ、其土地ヲ買換ヘタナラバ確實有利ナル世襲財產ヲ作ルコトが出來ルト云フノ、解除スルコトが出來ヌ爲ニ大ニ不利益ナコトガアル、斯ウ云フ場合ガアリマス、是ハ前ノ方ノ確實有利ナル世襲財產ニ換ヘルコト、ソレカラ已ムコトヲ得ザル事由アルカ、或ハ今日實際サウ云フ場合カ澤山生ジテ居ツテ、ドウシテモ斯ウ云フ變通ノ所ノ土地ヲ割イテサウシテ道路ニスルト云フヤウナ必要ガ實際アル、ソレハ無論公用

徵收ノ方ノ其手續キテ以テ道路ヲ擴メルト云フコトニスルコトモ出來マスケレドモ、ソレハ寧ロ折合ヲ付ケテ公用ノ徵收ニ依ルヨリモ、解除シテサウシテ公ケノ利益ニモナリ且又其土地ノ所有者ニ取テモ不利益ニナラヌヤウニスル爲ニ解除スルコトが出來ルヤウニシテ置イタ方ガ宜シイト云フ場合モアリマス、又本家別家ト云フヤウナ關係、本家ノ方ガ悲慘ノ境遇ニ陥ルヤウナトキ、其本家ヲ立テルト云フヤウナ爲ニ別家世襲財產ヲ一部解除シテ本家ヲ助ケルト云フヤウナコトモ結構ナコトデアリマス、又子供ガアツテ洋行サセルト云フヤウナ時ニ、其洋行ノ入費ヲ一万トカ一万トカ急ニ出サウト思シテモ出セヌ場合ハ矢張リ一部ヲ解除シテ修學ノ目的ヲ達セシムルコトガ出來タ方ガ宜カラウト云フヤウナ、舉ヶ來レバ種々ナル事情ガアルノデゴザイマシテ、其他唯今御舉ゲニナリマシタヤウナ場合ガ澤山アラウト思ヒマス、詰ル所、世襲財產ヲ解除スルコトガ出來ナイト云フコトニシテ置クノハ實ニ不便デアリマス、已ムヲ得ザル事由ガ前カラ發シテ來テ居ルノデゴザイマス、時勢ニ進運ト云フト解釋上妙デアリマスガ、世ノ事情ニ適應スルガ爲ニ餘程前カラ斯ウ云フ規定ヲ設ケル必要ガゴザイマシテ、帝室制度調査局アタリデ年來研究ヲ致シマシテ、矢張リ其案ヲ見マシテモ第十七條ニ當ツテ居ルヤウナ條文ガアリマス、結局唯今申上ダタヤウナ事情ガ大分アルノデアリマス、ソレハ事實トシテ具體的ニハ申サレマセヌガ、申サバ唯今申シタヤウナ次第ニアリマス

○奥田義人君 私ハ今途中テ出席ヲ致シマシタノデ富井博士ノ御質問ノ全部ハ承知ヲ致シマセヌガ、一部分承ッタ所ニ依リマスレバ、此十七條ノ已ムコトヲ得ザル事由ノアル場合ニ限リテ世襲財產ノ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトが出來ル、又確實有利ナル世襲財產ヲ換フル爲ニ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトが出來ルトアル所ノ簡條ニ關シマシテ、トウ云フヤウナ例ガアルノデアルカト斯ウ云フ御尋ニアツテ、之ニ對スル御答ガアツカノ如クニ察セラレマシタ、果シテサウテアリマスカ、唯今ノ御答ニ依シテ見マスト其舉ゲラレマシタ所ノ例ガ或ハ適實アナカツノモアリハシナイカト私ハ考ヘマスノデ一應申上ケテ見タイト思ヒマスガ、其今舉ゲラレマシタ例ノ中ニ、例ヘバ子供ヲ洋行サセル爲ニ費用ガ要ル、サウ云フヤウナ時ニ於テハ全部又ハ一部ノ世襲財產ヲ廢止スルコトが出來ルトシテ置ク方ガ便利デアルト云フ御話アリマシタガ、サウ云フヤウナコトノ爲ニマテ此簡條ハ果シテ已ムコトヲ得ザル事由アル場合トシテ適用セラルト云フ精神デアルノデアリマセウカ、ドウモ私ノ考ヘル所デハソコマデハ廣ク之ヲ適用セラルト云フ精神デハナカツノデハアルマイカ知ラント思フノデアリマス、私が承知シテ居ル所ニ依リマスルト是迄ノ世襲財產ニナツテ居リマスルモノノ中ノ、就中其ノ家寶ナドガドウモ其中ニハ大分偽物ガアル、例ヘバ掛物が家寶ニナツテ居ル、刀劍が家寶ニナツテ居ル、其偽物ガ大分アルニモ拘リマセズ今日ノ規則ニ依リマスルト之ヲ解除スルコトが出來得マセヌ、ソコデ偽物ヲ世襲財產トシテ持シテ居リマスルモノノ中ノ、就中其ノ家寶ナドガドウモ其中ニハ大分偽物ガアル、例ヘバ掛物が家寶ニナツテ仕舞ツテ、サウシテ世襲財產ノ除外ニ置カナケレバナラヌト云フヤウニコトガ實際上ニ於テ大分アルカノ如クニ承知ヲ致シテ居リマス、而モ今日ノ規則ニ依リマスルト之ヲ解除スルコトが出來得ナイ、又丁度富井博士ノ舉ゲラレマシタヤウナ公ニ對スル義務ヲ果ス爲ニ例ヘバ相續稅ヲ拂フ爲ニ中ミ大キナ高デアルノガ、其相續稅ヲ拂フコトが出來ナイ、他カラシテ高利ノ金モ借りナケレバ拂フコトが出來ヌト云フヤウナ場合

ノ時ニハ是レ即チ茲ニ云フ已ムヲ得ザル場合、主トシテ分ニ對スル義務ヲ果スノガ是
ガ已ムヲ得ヌト云フヤウナ時デ、子供ヲ洋行サセル爲メ、其他一家ノ私事ニ付テ、ソレハ
同ジ私事デモ其家ノ倒レルヤウナコトデアリマスレバ兎モアレテアリマスケレドモ、洋行ヲサ
セル爲ノ費用ヲ償フ爲ニマテ廣ク之ヲ適用スルト云フ趣意デアルトスレバ、此箇條ノ適
用が濫用ニナシテ仕舞フヤウナコトニ相成リハシマイカト私ハ考ヘマス、併ナガラ是ハ解釋
問題デアシテ單ニ已ムヲ得ザル事由トアルノデアリマスカラ、マア當局ニ於テサウ解釋ヲサ
レバ已ムヲ得ヌノデアリマスケレドモ、立案ノ當時ニ於テハサウニ云フヤウナコトマテ及バ
ト考ヘテ居リマシタモノダカラ一應唯御参考迄ニ之ヲ申上ゲマス、全體御承知ノ通リニ皇
室世傳御料ニ付キマシテモ皇室典範ニ於テハ解除ノ規定ガナイノデ、皇室典範ニハ世傳
御料ヲ設定スル規定ノミアシテ解除ノ規定ヲ存シテ居リマスセス、然ルニ世傳御料ニ編入サレ
タ山林田畠等ニ全ク洪水ヤナドノ爲ニ荒地ニナシテ世傳御料トシテ存續セシムルコトノ必
要ノナイモノガ、解除ノ規定ノナイ爲ニ矢張リ依然トシテ世傳御料トシテ存續セラレテ
居ツタト云フ實例ガアリマス、ソレデ私ノ承知シテ居ル所ニ依リマスルト皇室典範ノ増補
ニ於テ初メテ此解除ノ規定ト云フモノヲ設ケラレタヤウニ考ヘマス、華族世襲財産ニ付
テモ矢張リソレ等ノ事例ニ鑑ミ實際今申上ゲルヤウニ大變偽物ガ家寶ノ世襲財產ニ
ナシテ居ツタト云フヤウナコトガアシテ、是モ解除スルコトガ出來ヌ、相續稅ヲ拂フコトが
來ヌ、實ニ萬已ムヲ得ヌ場合ニ是ハ適用セラルルト云フ趣意デアリマセナシタコト考ヘ
ルノデアリマス、或ハ私ノ解釋シテ居ル所ハ間違ツテ居ルカモ知レマセヌケレドモ、チヨット
今ノ御答辯ニ依リマシテ氣付キマシタノデ御参考マデニ申上ゲテ置キマス

除ノ濫用ト云フコトが生ジテ來ナ、政府委員ノ述ベラレタヤウニ子供ヲ洋行サセル場合

ニマニ解除タト云フ、解除シテ吳レト云フヤウナコトハ餘程防ケルハナイカ、サウ云フコトハ全ク御考ヘニナラヌノアルカ、ソレモ立案ノ當時ノ御考ヘニハアッタケレドモ、ソレハスウ云フ理由テ悪イカフ採ランダト云フノアルカ、其邊ヲ今一應伺ヒタイ

○政府委員（高橋作倅君）世襲財産ノ最高限ヲ定メルト云フ御論ニ付キマシテハ、立案ノ當時段々研究イタシマシタノデゴザイマス、而シテ此第六條ノ第一項ヲ設ケマシテ、宮内大臣が必要ト認メマシタトキニハ世襲財產トナルヘキ目錄以外ノ財產ノ狀況ヲ調査シテ其世襲財產ヲ設定シャウトスルモノ、其他ノ財產ノ調節ヲ圖ルコトが出來ルト云フヤウニ致シマシタ、相當ノ額ヲ世襲財產トスル、斯ウ云フコトニ致シマシタ、併シ其額ヲ財產三分ノ一トカ二分ノ一トカニスルト云フコトハ、ツレハ寧ロ實際ノ方ノ問題デ、調査ノ時ニ適當ノ程度ニスルコトニシテ、高ヲ制限スルト云フコトハシナカッタノデアリマス、而シテ最低限ニ關シテモ、研究ノ結果之ヲ減ジテ、純收入年五百圓ト云フ制限ガ現行法ニアリマス、其方モ研究ノ結果取扱ノアリマス

○富井政章君 甚ダクドイヤウデアリマスガ、今一應伺ヒタイ、唯今ノ御辯明ニ依レバ、最高限ナルモノ決メルト云フヤウナ約子定規ナコトヲスルヨリモ、第六條ニ依ッテ旨ク其邊ノ調節が付クト云フヤウナ御考ヘデアルヤウデス、ソレデ私ハ此第六條ト第七條ニ付テ立法ノ趣意ヲ伺ヒタノデアリマス、此規定ハ本案中ノ最モ重要ナル規定ノ一ツアルト思フノデスガ、私ハ能ク其意味が分ラナイ、第六條ニ「宮内大臣ハ目錄ニ記載シタル財產ヲ世襲財產ト爲スノ當否ヲ調査スヘシ」トアル、此當否ヲ調査スルト云フコトハ、ドレダケノ權限ヲ定メタモノデアルカ、第七條ニモ「宮内大臣ハ前條ノ調査ニ依リ支障ナシト認メタル財產ニ付云フヤウナ約子定規ナコトヲスルヨリモ、第六條ニ依ッテ宮内大臣ガ定メルノカ、私ニハ能ク分ラナイノデアル、第四條ニ世襲財產トナスベキ財產ヲ限定シテアル、其種目ノ中ニ這入ラネバナラヌ、ソレデ目錄ニ掲ゲテアル財產ハ第四條ニ列舉シタル財產ノ中ニ這入ルモノデアルカ、其以外ノモノデアルカ、調べルダケノ權限デアルカ、ソレナラバ分リ切ッタ當然ナコトデアルト思フ、併ナガラソレナラバ矢張リ其事ヲ明カニ唄フ必要ガアラウト思フ、何カナラバソレダケノ事ヲ宮内大臣ニ於テ爲シ得ルコト、又爲サネバナラヌコトハ當然ノコトデアルカラ、ソンナ分リ切ッタ事ヲ規定スル趣意デハナカラウ、ソレヨリモ一層强大ナル權能ヲ宮内大臣ニ與ヘル趣意デアラウト云フ解釋ガ屹度生ズルト思ヒマスカラ、當然ノコトハアルケレドモ、ソレナラバ其事ヲ明カニ書ク必要ガアラウト思フ、若シ又サウ云フコトデナクシテ、此當否ヲ調査スルトカ、支障ノ有無ヲ判断スルトカ、サウ云フコトデナクシテ、一層强大ナル權力ヲ宮内大臣ニ與ヘタストレバ、即チ此第四條ニ掲ケテアル種目ノ範圍内ニ於テ、此モノヲ世襲財產トスルハ宜イガ、他ノモノヲ世襲財產トシテハ宜シクナイトカ云フヤウナ區別ヲ宮内大臣ガ爲スコトヲ得ルノデアコトモ起ルカモ知レス、又宮内大臣ニ於テモ餘程仕惡クコトデアロウト思フ、唯今御配付ニナシタ施行規則案ト云フモノヲ今チヨット覗イテ見テ居ルノデアリマスガ、ソレニ依ルト何カ少シ標準が定メアルヤウデアリマス、家寶ト云フモノハ斯ウ云フモノダ、土地ハ斯ウ云フモノデ、斯ウ云フ土地デナクテハナラヌトカ云フヤウナ規定ガ施行規則案ニアルヤウデ

アリマス、サウスレバサウ云フ標準ニ依ツテ宮内大臣ガ、是ハ宜シイガ彼レハ御止シナサイ

ト云フノデアルカ、サウスレバサウ云フ重大ナコトヲ施行規則デ決メタモノアルト思フノデアリマスガ、兎モ角サウ云フ趣意デアルカ、私共ハ寧ロ此案ノミヲ見タ時ニ起シタ感シハ、苟モ此第四條ニ當ル財產ヲアレバ、宮内大臣ハ、是ハ宜イガ、アレハ御止シナサイト云フコトハ言ヘナインデアッテ、是非トモ第七條ニ依テ公告ヲセニヤナラスト解釋シタノデアルガ、ドウモ其邊ハ能ク分ラナイ、或ハ立案ノ趣意ハ今一層強イ權能ヲ宮内大臣ニ與ヘルト云フノデアルカ、ソレモ伺ヒタイ、即チ此種類アナイ、多喜デアル、目錄ニ掲ゲテアル財產ハ何レモ世襲財產トシテ宜イ財產デアル、種類ノ方カラ言ヘバ支障ハナイ、謂ハユル第七條ニ謂フ支障ハ無イケレドモ、餘リ多過ギル、ソシナニ澤山世襲財產トセナクテモ宣イテハナイカ、跡カラ息子サンガ借金ヲスルカモ知レヌ、相續税ヲ拂フコトモ出來スト云フコトガ起ルカモ知レス、サウ云フ場合ニハ皆世襲財產トシテ了ツテハ困ルデアラウカラ、ノアルカ、サウナレバ宮内大臣ガ適宜ニ切盛リヲシテ世襲財產ノ分量ヲ決メルト云フコトニナルノデアリマスカラ、私が先程申上ゲマシタ通り是非共明文ヲ要スルコトデアラウト思フ、是ダケテハドウモサウ云フコト迄ハ出來ナイト私ハ解釋スルノデアル、要スルニ第六條ニ所謂當否ヲ調査スルト云フコトハ、第七條ニ所謂支障ナシト認メタルト云フコトノ意味が能ク分ラナイ、即チ宮内大臣ノ權能ノ範圍ガ能ク分ラナイノデアリマシテ、ドウカ其點ヲ明カニ御説明ヲ願ヒタイ

○説明員（山内確三郎君）此世襲財產ノ設定ヲ認可スルニ付キマシテ、其最高額ヲ如何ニスルカ、或ハ又最底額ヲ如何ニスルカト云フコトニ付テ特ニ最高額ヲ宮内大臣ガ之ヲ定メテ是ハ多過ギル、或ハ又是ハ少過ギルト云フヤウナコトデ、額ヲ定メル趣意旨ニ於テ世襲財產ノ設定ノ認可ヲ或ハ許サナイトカ認可ヲ致サナイト云フヤウナ權限ヲ直接ニ與ヘルト云フコトヲ此案ニ定メタト云フコトハナイ、而シテソレニ牽聯イタシマシテ、第六條ニ於テ宮内大臣ガ世襲財產トシテ一ツノ財產ヲ世襲財產トスルコトノ當否ヲ調査スル、其當否如何ト云フコトハ甚ダ法案ノ明文上ハ明カニナシテ居ナインデスカラ、立案ノ際ニ我ニが評議イタシマシタ趣意ハ必ズシモ第四條ニ定メタ所ノ財產ノ性質ニ合フカ否ヤ其種類ニ合スルヤ否ヤト云フコトノミトハ考ヘテ居ナカッタ、マ一ツ例ヲ取シテ申上ゲマスト、茲ニ一ツノ不動産ガアル、此不動産ニ對シテ世襲財產ノ效果ヲ受ケ、即チ世襲財產ヲ設定スルト云フヤウナ認可ノ申請ノアツタ時若シ其財產ニ非常ナ長期ノ地上權ガ付テ居ル、或ハ極端ニ申シマスト地代ハ全部拂ヒ終ツテ、サウシテ地上權ノミが着イテ居ル、サウ云フ財產ガアルト假定イタシマスト、此世襲財產ハ單リ其財產ノ處分ヲ止メ、他カラ差押モ出來ナシ、或ハ是ニ質ヲ設定スルコトモ出來ナイ、斯ウ云フヤウナ效果ヲ定ムルノミガ趣意デナクシテ、其世襲財產ニ依ツテ生ズル所ノ收益テ以テ華族ニ相當スルカラ、若シ全ク其地上權が付テ、而カモ地代ハ全部納メテシマシテアル、サウシテ其財產カラ何等ノ収益が出來ナイト云フ財產デアルナラバ……總テガサウトハ申シマセヌガ、或ハ時トシテハ是ハ世襲財產トシテ設定スルコトハ宜シクナインデアリマス、ソレカラ又他ノ

例ヲ取りマスト世襲財産ハ或ハ先取特權ノ目的ニナシテ居ルトカ、或ハ之ニ或ル質權ガ付テ居ル、差押ニナシテ居ル、斯ウ云ウモノハ或ハ現行法デハ殆ド……殆ドヘアリマセヌガ、法律ノ規定ヲ以テ世襲、財產ヲ設定スルコトハ出來ナイトナシテ居リマスガ、サウ云フモノモ勿論サウ云フコトガアレハ世襲財產ヲ設定スルノハ不當アルト云フコトヲ第六條ノ規定ノ趣旨ニ依ッテ之ヲ調査スルコトモ出來ル、サウ云フ次第アスカラ單リ世襲財產ノ種類ガ第四條ニ合フヤ否ヤト云フコトハ格別トシテ、ノミナラズ若シ其財產ヲ世襲財產トシテモ世襲財產ノ效果ヲ收メルコトが出來ナイト云フヤウナ、詰リ不適當ナモノデアレバ、法律上ノミナラズ其事實上ニ於テ不適當ダト思フヤウナ時ハ矢張リ不適當ト宮内大臣ガ認定スルコトが出來ルト云フ頭ニアシテ積リテアリマスカラ、若シ極端ノ例ヲ取リマスト最少額ハ定メテ居ナイノアリマスケレドモ、極メテ少額ノ世襲財產ヲ設定スルト云フヤウナ場合ニ、ソレハ甚ダ無意味ダト云フヤウナ時ニモソレハ不當アル、或ハ此世襲財產ヲ今此所ニ設定スルケレドモ、是ハ直チニ解除シナケレバナラズ事情ガアル、或ハ世襲財產ヲ此所ニ設定スルケレドモ、他ノ財產ナリ債權債務ノ關係ヲ考ヘルト云フバナラヌト云フヤウナ事情ガアル場合ニ、一般財產ノ調査ノ結果是レ是レノ財產ヲ世襲財產トスルコトハ不都合アルト云フヤウナ場合ニモ、此第六條ニ依ッテ調査スルト云フ趣意デアックト云フコトハ申上ゲルコトが出來ル、併ナガラ此當否ハドノ點マテアルト云フコトニナルト、極メテ漢ト致シテ居リマシテ事實上法律上ノ點ニ於テ世襲財產トスルニ差支ガアルヤ否ヤト云フコトヲ調ベルト云フ外ニハ申上ゲヤウガナイ、ソコテ是ハ少シ話が違ヒマスガ、丁度私立チマシタ序ニアリマスカラ申上ゲマスガ、昨日岡野博士カラ第十九條ノ關係ニ付テ御質問ガアリマシタ、即チ寧ロ第二項ノ問題デアリマスガ、世襲財產ガ或ハ收用ニ依リ滯納處分ニ依リ、或ハ世襲財產ノ例ヘハ株券等ガ、或ハ公債等ガ償還サレタ場合、其他ノ場合ニ多クノ場合ニ全ガ世襲財產ノ所有者即チ華族ニ歸スベキ場合デアル、其場合ニ其金即チ世襲財產ニ代々テ這入テ來タ所ノ財產、ソレハ之ヲ差押ヘルコトが出來ナイ、世襲財產ト同様ニシテ處分ノ出來ザルモノト云フヤウニ十九條ノ一項ニ規定ガ一ツアル、其際其金ガ債權トシテ存在シテ居ル間ハ丁度株券デアレバ、有價證券ナレバ是ガ償還セラレタ時ニ償還ニ依ッテ受クベキ金、其金ヲ受クベキ債權ハ丁度株券ノ償還ニ當ルモノト云フコトが明カニナルノアルケレドモ、若シ一旦ソレヲ有爵者ガスカカリ金ヲ懷ニ收メタ時ハ、又其金が他ノ財產トハ混合シテ居ナイトシテモ果シテ株券、對償トシテ受ケタノアルカ、公債償還トシテ受ケタ金デアルカト云フコトハ非常ニ曖昧ニナルト云フ御話アリマシタガ、ソレハ御尤モノ御話アリマス、然ルニ此ノ所デチヨット御斷リ申上ゲテ置カネバナラヌノハ、此案ヲ……茲ニ提出シテアリマスル案ヲ前ノ案デハ第十九條ニ株券ノ償還ト云フモノガ起ツタ時ニ其世襲財產ニ代ハル所ノ財產ハ之ヲ以テ新ニ世襲財產ト設定スル財產ヲ取得シテサウシテソレヲ世襲財產ニスルマデハ他ノ財產カラ分離引分ケテ管理シテ置ク、詰リ一般財產ト混合セズニ之ヲ分離シテ管理シテ置クト云フ案ヲ立テタノアリマス、其分離シテ管理シタ財產ハ世襲財產トノ前ノ案デハ第十九條ニ株券ノ償還ト云フモノガ起ツタ時ニ其世襲財產ニ代ハル所ノ財產ハ之ヲ以テ新ニ世襲財產ト設定スル財產ヲ取得シテサウシテソレヲ世襲財產ニスルマデハ他ノ財產カラ分離引分ケテ管理シテ置ク、詰リ一般財產ト混合セズニ之ヲ分離シテ管理シテ置クト云フ案ヲ立テタノアリマスカラ、サウ云フコトハ是ハ全ク別ノ同樣ニシテ押ヘルコトハ出來ナイト云フ案ヲ一方ニ立テアッタノアリマス、處ガソレガ非常ニ煩雜デ華族ニシテモ非常ニ財產ノ多イ人モアレバ或ハ少ナイ人モアル、非常ナ大華

族ニ於テ茲ニ世襲財產ヲ設定セラル場合ニ、一々分離シテ管理シテ、サウシテソレハ差押ヘナイト云フ規定ヲ廣ク置クノ頗ル無用ノ手續ナリハシナイカト云フコトカラ、サウ云フ主義ヲ廢メテサウシテ必要アル場合ニハ二十條ノ規定ニ依ッテ管理ラスルト云フ規定ヲ立テタノアリマス、其二十條ノ規定ニ依ッテ……管埋スル、其管埋スル財產ヲ調査スルコトハ出來ナイト云フコトヲ二十條ニ依ッテ明ラカニシテ、其以外ノ場合ハ之ヲ自由ニシテ差押ヘテモ宜ケレバ、是ハ總テ自由ト云フヤウニ案ヲ改メタ、然ルニ十九條ノ第二項が殘シテ居ル、改メタ趣意ト反對ノ規定が殘シテ居ルヤウニナリマシタガ、私ハ是モ二十條ノ一項ニ背ク爲ニ削ラベキモノニアッテ、ソレガ爲ニ削ラナケレバナラヌモノノカ誤ッテ茲ニ残シテ居ツタモノト考ヘルノデ、此點モチヨット立チマシタ序ニ申上ゲテ寧ロ御斷リヲシテ置キタイト思ヒマス○岡野敬次郎君先刻ノ富井博士カラノ質問ニ對シテノ御答ヲ唯今詳シ承ハルコトが出來マシタガ、此要スルニ疑問ノ存スル所ハ華族ガ全財產ヲ舉ゲテ、即チ全部ヲ世襲財產トナスト云フコトノ當否ト云フコトニ私ハ歸著スルヤウニ思フノアリマス、ソレデト非常ニ負債ガ多イノデ、斯ウ澤山ノ世襲財產ヲ設定シテモ直チニ解除シナケレバナラヌト云フヤウナ事情ガアル場合ニ、一般財產ノ調査ノ結果是レ是レノ財產ヲ世襲財產トスルコトニアルヤ否ヤト云フコトヲ調ベルト云フ外ニハ申上ゲヤウガナイ、ソコテ是ハ少シ話が趣意デアックト云フコトハ申上ゲルコトが出來ル、併ナガラ此當否ハドノ點マテアルト云フコトニナルト、極メテ漢ト致シテ居リマシテ事實上法律上ノ點ニ於テ世襲財產トスルニ差支ガアルヤ否ヤト云フコトヲ調ベルト云フ外ニハ申上ゲヤウガナイ、ソコテ是ハ少シ話が違ヒマスガ、丁度私立チマシタ序ニアリマスカラ申上ゲマスガ、昨日岡野博士カラ第十九條ノ關係ニ付テ御質問ガアリマシタ、即チ寧ロ第二項ノ問題デアリマスガ、世襲財產ガ或ハ收用ニ依リ滯納處分ニ依リ、或ハ世襲財產ノ例ヘハ株券等ガ、或ハ公債等ガ償還サレタ場合、其他ノ場合ニ多クノ場合ニ全ガ世襲財產ノ所有者即チ華族ニ歸スベキ場合デアル、其場合ニ其金即チ世襲財產ニ代々テ這入テ來タ所ノ財產、ソレハ之ヲ差押ヘルコトが出來ナイ、世襲財產ト同様ニシテ處分ノ出來ザルモノト云フヤウニ十九條ノ一項ニ規定ガ一ツアル、其際其金ガ債權トシテ存在シテ居ル間ハ丁度株券デアレバ、有價證券ナレバ是ガ償還セラレタ時ニ償還ニ依ッテ受クベキ金、其金ヲ受クベキ債權ハ丁度株券ノ償還ニ當ルモノト云フコトガ明カニナルノアルケレドモ、若シ一旦ソレヲ有爵者ガスカカリ金ヲ懷ニ收メタ時ハ、又其金が他ノ財產トハ混合シテ居ナイトシテモ果シテ株券、對償トシテ受ケタノアルカ、公債償還トシテ受ケタ金デアルカト云フコトハ非常ニ曖昧ニナルト云フ御話アリマシタガ、ソレハ御尤モノ御話アリマス、然ルニ此ノ所デチヨット御斷リ申上ゲテ置カネバナラヌノハ、此案ヲ……茲ニ提出シテアリマスル案ヲ前ノ案デハ第十九條ニ株券ノ償還ト云フモノガ起ツタ時ニ其世襲財產ニ代ハル所ノ財產ハ之ヲ以テ新ニ世襲財產ト設定スル財產ヲ取得シテサウシテソレヲ世襲財產ニスルマデハ他ノ財產カラ分離引分ケテ管理シテ置ク、詰リ一般財產ト混合セズニ之ヲ分離シテ管理シテ置クト云フ案ヲ立テタノアリマス、其分離シテ管理シタ財產ハ世襲財產トノ前ノ案デハ第十九條ニ株券ノ償還ト云フモノガ起ツタ時ニ其世襲財產ニ代ハル所ノ財產ハ之ヲ以テ新ニ世襲財產ト設定スル財產ヲ取得シテサウシテソレヲ世襲財產ニスルマデハ他ノ財產カラ分離引分ケテ管理シテ置ク、詰リ一般財產ト混合セズニ之ヲ分離シテ管理シテ置クト云フ案ヲ立テタノアリマスカラ、サウ云フコトハ是ハ全ク別ノ同樣ニシテ押ヘルコトハ出來ナイト云フ案ヲ一方ニ立テアッタノアリマス、處ガソレガ非常ニ煩雜デ華族ニシテモ非常ニ財產ノ多イ人モアレバ或ハ少ナイ人モアル、非常ナ大華

ヤト云フコトハ此第六條七條ノ闕スル所ニアラスト私ハ信ズルノデアリマス、尙私ガ一ツ
伺ッテ置キタイ事ハ、此世襲財産タルノ效力ガ第二者ニ對抗スルコトヲ得ルニ至ルノ日
ト云フコトガ、本案ノ所々用井テアルノデアリマス、テ登録國債或ハ株券社債券ニ就テハ
第十一條ニ明文ガアリマシテ、即チ前二條ノ要件ヲ具備スルニアラザレバ、之ヲ以テ第三
者ニ對抗スルコトヲ得ズトアリマスカラ、ソレデ登録國債アルナラバ、其證券ニ依テ取引ヲスル
錄シ、又有價證券アルナラバ、其證券ニ世襲財產タル旨ヲ記入シ、其以後テナケレバ
第三者ニ對シテ世襲財產タル效力ヲ主張スルコトハ出來ナリ、株券社債券ニ就テハ、各
商法ニ定ムル所ノ株主名簿社債原簿ト云フモノニ是亦世襲財產タル旨ヲ記入スルト
云フコトガアッテナケレバ、世襲財產ノ效力ヲ第二者ニ適用スルコトヲ得ズト云フコト
ニナルノデアリマス、ソレカラ不動產ニ就テハ茲ニ何レノ時カラ第二者ニ對抗スルコトヲ得
ルト云フコトハ書イテナインデアリマスガ、蓋シ不動產登記法ノ上カラ申シタナラバ本案ノ
趣意ヨリモ蓋シ此條文ノ制限ト云フコトニナルノデアリマシテ、即チ登記ヲシテ始メテ第三
者ニ對抗スルコトヲ得ルト云フコトニナルノデアラウカト私ハ推測ヲスルノデアリマスガ、果
シテ然ルヤ否ト云フコトヲ伺ヒタインデアリマス、ソレカラ次ニハ假ニ不動產ニ付テハ登
記ヲナシ、ソレカラ登録國債其他有價證券ニ付テハ各々本法ニ定ムル所ノ手續ヲナシテ
始メテ第二者ニ對抗スルコトヲ得トスウ解シテ置キマシテ、ソレガ正解ナリ本案ノ趣意ナ
リト假定シテ置キマシテ、其上ニ私ハ御尋ラ致シタインデアリマスガ、ソレハ華族ヨリ世襲
財產トナスト云フコトノ認可ノ申請ヲ致シマシテ、ソレデ宮内大臣ハ調査ヲナシテ、サウ
シテ此第七條ニ依テ是等ノ財產ハ即チ世襲財產トシテ差支ナイモノデアルカラ世襲財
產トナスコトノ認可ヲシタ、認可ノ申請アッタ旨ヲ報告シタ、ソレカラ更ニ認可ヲスルコ
トニナルノデアリマス、認可ノ後ニ至シテ始メテ不動產ニ付テハ登記ヲスルトカ其他登
錄ヲ要スルモノナラバ、登録ヲスルト云フトニナルノデアリマス、ソレデ第九條ニ於テハ「宮
内大臣ハ世襲財產ノ設定又ハ増加ヲ認可シタルトキハ其ノ旨及第七條第一項ニ掲
タル事項ヲ公告ヘシ」トスウ云フコトニ定メテアルノデアリマスガ、私ノ御尋イタシトイ
點ハ斯ノ如クニ公告ヲシテモ尙登記登録ヲナサザル間ハ世襲財產タルノ效力ハ第二者
ニ對抗スルコトヲ得ナイト云フコトハドウデアラウカト云フ詰リ疑問アル、既ニ不動產ニ付
ハハ其所在地面積、建物ニ付テモ矢張リソレハ公告ヲスルノデアリマス、其他ノ物件ニ
付テモ品目、種類、箇數其ノ必要ナル事項モ矢張リ公告スルノデアル、有價證券ニ付キ
マシテモ此第七條ニ定ムル所ニ果シテ足リカドウカハ分リマセヌケレドモ、併ナガ
ラ番號デアルトカ云フモノハ矢張リ公告シテ然ルベキモノデアラウト思ウ、サウシテ公告シ
タナラバ必ズシモ登記ヲナシ、或ハ登録ヲナシ、或ハ此株券等ニ記入ヲシナイデモ尙效力ガ
アッテモ、宜クハナイカ、之ヲ世襲財產ノ側カラ見ルト云フトサウ云フ疑問ガ私ナドハ起ルノ
ハ、サウデナイト云フト、認可ノアッタ旨ヲ公告シテサウシテ權利アル者トシテ其權利主
張ノ機會ヲ與ヘ愈、其上ニ差支ナイカラト言ウテ認可ヲシテ置イテモ尙世襲財產タル效
力ハナイ、第二者ニ對抗スルコトハ出來ナリ、サウスルト抑、第九條ニ定ムル所ノ公告ハ
何ノ爲ニスルノデアルカ、認可ノアッタ旨ヲ公告シテ、アトハ手續ヲスレバソレデ
宜イヤウニ思ヒマスガ、私ノハ此九條ニ一項ニ斯ノ如ク公告ノ手續ヲ定メテ置キナガラ
尙此登記ヤ登録ヤ其他株券社債券等ニ世襲財產タル旨ヲ記入セズンバ第二者ニ對

抗スルコトが出來ナイト云フコトハ、ドウ云フ理由デアリマセウカ、成程一般ノ融通ノ上
カラ考ヘテ見マスルト云フト、ドウモ株券社債券ニ依テ取引ヲスル其證券ニ依テ取引
ヲスルモノデアルカラ、其世襲財產ト云フコトヲ記入シ、過キヌノデアリ
テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルト云フ趣旨ヲ此處ニ貫イタト云フコトニ過キヌノデアリ
マス、サウナレバ九條ノ公告ハドウナルカト云ヘバ、此案ノ規定ニ依ルト唯一般ニ之ヲ注
意シ公示スルダケノコトノ外ニハ法律上ノ效力ハナイ、登記ヲ必要トスルノハ繼續シタル
公示方法ニ依テ第三者ニ對抗スルト云フ趣意ニ倣ツタガ良クハナイカト云フノテノヲ取
テ來タ次第デアリマス、其他ノ登録等モ矢張リ同一ノ見解デ、登記方法登録方法ヲ

以テ公示方法トシ、之ヲ以テ第二者ニ對抗スルト云フヤウニシタニ過ギマセヌノニアリマス
○岡野敬次郎君 略、分リマシタガ私ガ先刻御尋ネ中ニ或ハ私ノ言葉が足ラナカッタ
爲ニ誤解ヲ招イタカモ知レマセヌガ、私ハ登記登記ヲ不必要ト云フタノデヤアリマセヌ、
矢張リ登記ラスルモ宜イノデアル、登記スベキモノハ登記サセルモ宜シ、永久的ノ公示
方法ヲ決シテ私ハ取ラヌデ宜シト云フノデハアリマセヌ、唯其ノ世襲財産設定又ハ増
加ノ當時ニ於テ、宮内大臣ニ認可ト云フコト竝ニ公告ト云フコトニ重キヲ置クナラバ、
之ヲ第三者ニ對抗スル場合ニ、必ズシモ登記登記ノ手續ガナクテモ宜クハナイカト云フ
ダケノ問題トシテ御尋シマシタ、登記登記ハ要ラヌト云フ意味デ御尋シタノデハアリマセ
ヌ、私が御尋シタ要點ハ其所ニ在ルノニアリマス、唯私ノ疑問トスル所ハ、認可モアリ公
告モシタ、併ナガラ尙世襲財産トシテハ處分モ出來レバ競賣モ出來ルト云フコトニナレ
バ、餘リニ認可公告ト云フコトハ何等重イ意味ヲナサヌヤウニ見エルカラ、ソコテ私ハ御
尋ラシタノアリマス、誤解ヲ避ケル爲ニ一言申シテ置キマス

○奥田義人君 此第六條ノ規定ノコトニ付キマシテ、先刻富井博士ヨリ御質問ニナ
リマシタ其要旨ヲ伺シテ見マスト云フト、全部ノ財產ヲ世襲財產トスルト云フコトハ許ス
ノアルカドウデアルカ、何カ世襲財產トナスベキ財產ノ分量ニ付テ限定ヲスルコトハ出
來ヌノアルカドウデアルカト云フヤウナ御質問デアツタヤウニ考ヘラレマス、是ニ對シテ政
府委員ヨリ御答辯モアリマシタガ、全體六條ノ規定ト云フモノハ臨時議會ノ當時ニ本
案が御提出ニナリマシタ時ニ私モ少シ疑ヲ持チマシテ政所委員ニ能ク御尋ラシテ、若シ
ノ解釋ヲシテ居ルヤウナ意味デアルナラバ、是ハドウモ修正ヲ加ヘタ方ガ宜カラウト、斯
様ニ自分デハ思ツテ居リマシタ箇條デアリマス、ト云フノハ六條ノ一項ヲ見マスト云フ
ト宮内大臣ハ目錄ニ記載シタル財產ヲ世襲財產ト爲スノ當否ヲ調査スヘシトアル、
而シテ第七條ニ「宮内大臣ハ前條ノ調査ニ依リ支障ナシト認メタル財產ニ付云ミ」ト斯
様ニ規定シテアル所カラ見マスト、六條ノ一項ノ謂ハユル當否ト云フノハ、此目錄ニ記
載シテ世襲財產ニシタ云フコトノ申請ノアリマシタ財產ソレ自身ガ、果シテ世襲財產
ト爲スニ適當ナルヤ否ヤト云フコトヲ調査ヲシテ、サウシテ差支ノナイモノデアレバ、其目錄
ニ在ル範圍内ニ於テ、七條ノ規定ニ依テ認可ラスルト云フヨリ外解釋ハ出來ヌヤウデア
リマス……此法文ノ精神カラ見ルト……然レドモ規定ノ精神ハサウデモナインヤナイカ
知ラヌト私ハ解釋シテ居リマス、ト云フノハ申請ヲ致シマシタ財產ハ此世襲財產ト爲ス
ニ適當ナル財產デアル、適當ナル財產デアツテモ、必ズシモ世襲財產トシテ設定ヲ許サナケ
レバナラスト云フ必要ハナイノデアツテ、宮内大臣ハ其以外ノ財產狀況等ヲ審査ラシテ見
テ、サウシテドウモ今此一家ノ状態が大變負債ニ苦シニ居ル、生活ニモ困難ヲシテ居ル
狀態ニ在ル、世襲財產ノ設定ドコロデナイト云フ話デアルナラバ、假令申請ノアツタ財
產ガ世襲財產ニ適當ナモノデアツテモ、尙其設定ノ認可ヲ許サヌト云フ斯ウ云フヤウナ考
テ、此前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ目錄
第七條ニ「宮内大臣ハ前條ノ調査ニ依リ支障ナシト認メタル財產ニ付」ト書イテゴザイ
マス、是ハ第六條ノ二項ニ「前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ目錄
以外ニ財產ノ状況ヲ調査スルコトヲ得」トゴザイマス、之ニ依リマシテ、世襲財產ト爲シ
ヲ調査スルコトヲ得」ト云フ規定ガアルノデ、其財產ニ……申請ニナツタ財產ニ、地上權
ノ設定ガアルトカ、抵當權ノ設定ガアルトカ云フヤウナコトバカリヲ調ベルノデハナイ、一體ニ
一家ノ状況モ調べテ、サウシテ果シテ世襲財產ノ設定ヲ許シテ可ナリヤ否ヤト云フコトマデモ審
立入テ調ベルト云フ權力ヲ宮内大臣ニ與ヘルト云フ精神デハアリマセナンダラウカ、若シ

果シテ私ノ解釋シテ居ル通リテアルトスレバ、全部ノ財產……全部ノ財產ト言ウテモ所
有ノ全部ヲ世襲財產トスルコトハ出來マセヌ、現ニ第四條ニ「世襲財產ハ家寶不動産、
登記國債又ハ記名ノ有價證券ニ限ル」トアルノニアリマスカラ、家寶以外ノ不動産ハ世
襲財產トハ出來ナイノニアリマスカラ、全部ノ財產ヲ世襲財產トスルコトハ出來ナイノデ、
實際モ出來ズ又此規定カラモ出來ナイノニアリマス、第四條ニ舉ゲテアル世襲財產ニシ
タイト云フ申請ノアリマシタ時デアツテモ、但シハ又此中ノ一部分ヲ世襲財產ニ設定ラシ
モテハアリマセナシダラウカ、若シサウ云フ趣意デアツト見レバ、此六條ノ規定ハ……竝
ニ七條モ關聯シテ居ルノニアリマスガ、此所ハ多少ノ修正ヲ加ヘマセヌト云フト、先刻岡
野君ノ述ベラマシタルガ如ク、ドウシテモ此法文ダケデハ、唯此世襲財產ト爲シタイト
モテハアリマセナシダラウカ、若シサウ云フ趣意デアツト見レバ、此六條ノ規定ハ……竝
云フ申請ノアリマシタ時デモ、一家ノ事情ノ如何ニ依テハ宮内大臣ハ其設定ヲ
全然拒シテシマフコトモ出來ル、將又其事情ノ如何ニ依テハ之ヲ減シサセテ、此範圍
ニ止メサセテシマフト云フヤウナコトノ權力モ、宮内大臣ニ與ヘラレルト云フヤウナ趣意ド
モテハアリマセナシダラウカ、若シサウ云フ趣意デアツト見レバ、此六條ノ規定ハ……竝
ヤト云フコトノ當否ヲノミヲ調査スル法文デアル如ク見エルノニアリマス、又サウ解釋スル
ノガ當リ前ダラウト思ヒマス、是レハ臨時議會當時カラ私モ疑問ヲ持テ居リマシタノデ、
伺ツテ見タイト思ツテ居リマシタノニアリマスカラ、私モ今述ベマシタノハ法案ノ精神デハナ
イノニアリマセウカ、一應御伺ヒ致シマス

○富井政章君 チヨツトソレニ關聯シテ私モ一箇條伺ツテ置キタイ、若シ此第六條ノ趣
旨が唯今奥田君が最後ニ述ベラレタヤウナ趣旨デアルナラバ、私が先程チヨツト……マダ
自分ノ意見トシテ申上ケタノデハナインデスケレドモ、ドウニカシテ最高限ヲ設ケルト云フ
コトノ必要が無クナル、サウ云フヤウナ趣旨デアルナラバ、私モ調節が付テ行クト思フノニアリマ
ス、唯サウ云フ趣意デアルナラバ、此書キ方デハドウモ幾ラ讀ンデモサウ云フ解釋ハ出來
ナイト思フノニアリマス、是ハ先程岡野君モ言ハレタ通り、目錄ニ掲タル財產ニ付テ第
四條ノ種目ニ當ルカドウカ、尙其上ニモ施行規則モ有リマスカラ、施行規則ノ規定ニモ
適ツテ居ルカドウカト云フコトヲ見テ、適ツテ居レバ、幾ラ澤山デアツテモドウスルコトモ出來
ナイ、一々許サンナラヌ、斯ウ云フコトニドウシテモ解釋センナラヌ、家ノ状況ナドヲ見テ
ニカセニヤナラヌト思フノニアリマスガ、其點ヲ伺ヒタイ

○説明員(馬場鉄一君) 第六條第七條ノ事ニ付テ更ニ補ツテ申上ケテ置キタイ、唯
今奥田博士ノ述ベラレタヤウナ趣意ニ第六條第七條ハ出來テ居ルノニアリマス、其點ハ
第七條ニ「宮内大臣ハ前條ノ調査ニ依リ支障ナシト認メタル財產ニ付」ト書イテゴザイ
マス、是ハ第六條ノ二項ニ「前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ目錄
以外ニ財產ノ状況ヲ調査スルコトヲ得」トゴザイマス、之ニ依リマシテ、世襲財產ト爲シ
タイト言ウテ目錄ニ掲ゲマシタ財產ダケノ調査デハゴザイマセヌ、他ノ一般ノ其家の債務
債務其他ノ財產狀況ヲ調ベマシテ、唯今奥田博士ノ述ベラレタ如クニ、果シテ此目錄
ニ掲ゲタ財產ヲ世襲財產ト爲スコトガ此家ノ爲ニ適當デアルヤ否ヤト云フコトマデモ審
立入テ調ベルト云フ趣意ニ六條が出來テ居ル積リテゴザイマス、ソレ故ニ其調査ヲ致シマシタ上

デ、目録ニ記載ヲ致シテ來タ所ノ財産ハ其家ノ世襲財產ト爲スベキヤ否ヤト云フコトヲ判定イタシマシテ、認可ヲ致シマスト云フ趣意テゴザイマスカラ、或ハ文字ノ上ニ於テハ多少、其意味ヲ現ハシテ居リマセヌカ知リマセヌガ、趣意ハ全ク奥田博士ノ述ベラレタ趣意ニ出來テ居リマス積リデアリマス

○男爵田健治郎君 私ハ十九條ニ付テヨット先刻當局者ノ御述ベニナツタコトニ念ヲ推シテ御尋シタイコトガアルノデアリマスガ、其前ニ今奥田博士並ニ富井博士ノ御尋ニ對シテ今御答ニナツタ點ニ付テモ確メテ置キタインデアリマス、今ノ御答ア第六條ト申スモノが極メテ意義ノアル規定ニアルト云フコトが始メテ解釋が出來マシタ、此書イテアル通り

ニアルト、目録以外ノ財產ノ狀況ヲ調査スルトアル、是デハドウモココハカリテハ……目録以外ノ財產ノ狀況トアルノデアルカラ謂ハユル不動產ナリノ狀況ヲ調査スルシカ解セラレマセヌ、故ニソレデハ財產が幾ラツテモソレニ對シテ負債が澤山アレバ、實ニ財產ガ「ゼロ」ニナルノデアルガ、其負債ノ關係ヲ調査スコトガ出來サウニ見エナイ、唯目録ニ書イタ外ノ財產ヲ調査スルト云フ風ニ見エマスガ、負債ノ調査が出來マセヌデハ、一向其家ノ家產が如何ナルモノデアルカト云フコトハ分リマセヌ、即チ世ニ謂フ所ノ貸借ノ「バランス」ト云フモノヲ調ベマセヌデハ、此財產ト云フモノガ其家ノ資產トシテ殘ルト云フコトハ分ラヌ、責メテ資產ノ狀況トモ書ケバ……詳シク言ヘバ貸借ノ狀況ト言ヘバ尙ホ能ク分ルガ、ソレガ唯目録以外ノ財產ノ狀況ト云フコトニ書イテアルノテ、甚ダ疑シテ居シタノアリマスガ、詰リ今ノ御答ハ資產ノ狀況ト云フコトニ解釋シテ宜シノンデアリマスカ

○説明員(馬場鑓一君) 全ク其通リテゴザイマシテ、其爲ニ實ハ財產ノ狀況ト云フ文字ヲ用ヰタノニアリマス、尙文字ハ穩當ナイカ知レマセヌガ、全ク其趣意テゴザイマス

○男爵田健治郎君 其次ニ唯今當局者ノ御説明ノ中ニ、十九條ノ第二項ハ前ニ立案シタトキニハ此管理法ノコトヲ一般ニ及ボスヤウナ立案ヲシタガ、更ニ立案ヲ變ヘテ、「十條ニ或ル必要ナモノニ向シテ始メテ管理人ヲ置クト云フヤウナコトニシタノデアリマス、隨シテ此十九條ノ第二項ト云フモノハ削シテ然ルベキモノガ、誤シテ存在シテ居シタ如クニ御説明ニナツタヤウデアリマスルガ、ソニコニ於テ少シク念ヲ推シテ置カニヤナラヌガ、若シ是が誤シテ這入シテ居ルモノニアレバ、之ヲ嚴格ニ言ヘバ、政府ハ之ヲ撤回デモ爲サルカ、或ハ修正デモ爲サルカ、削除ノ手續デモ爲サヌト、誤シタモノガ茲ニ立派ナ法文ノ原案トシテ……政府案トシテ出テ居シテハ、甚ダ迷惑イタス譯アリマスガ、是ハドウ云フモノデゴザイマセウカ、矢張リ存在ハ必要トシテ居ルト云フ譯ナラバ、是ハ可否ハ別ナコトデアリマスガ、若シ要ラヌモノガ偶然茲ニアルガ、併シ政府ハ依然トシテ……當局者ハ其實ハ要ラヌモノダガ唯出テ居ルト云フコトデハ、政府が原案ヲ提出セラル責任上重イ關係ガアルノデアリマスガ、政府委員カラ矢張リ政府ハ果シテ必要トシテ御提出ニナツタノデアルカ、要ラヌモノガ偶然茲ニアルノデアルカ、ソコハハッキリ御説明ヲ願ハヌト、政府ノ原案ニ對スル責任上甚ダ不都合デヤト存ズルノデアリマス

○説明員(山内確三郎君) 此十九條ノ二項ニ付テ私ガ申上ゲタコトハ、寧ロ此案ハ始メ評議スル時ト、後ニ評議スル時ニ、サフ云フ風ニナツテハ居ルマイカト云フ……

寧ロ私が此法案ノ法文ノ解釋ニ苦シタ爲ニ寧ロ私個人トシテ申上ゲタヤウナ次第デアリ

マスルガ、ソレハ甚ダ此席ニ來テ個人トシテ申上ゲタト言シテハ相濟ミマセヌケレドモ、實

ハサウ云フ風ニナルノデハアルマイカト云フコトヲ申上ゲタ次第デアリマスカラ、ドウツ……

○男爵田健治郎君 高橋政府委員ニ御尋シマスルガ、ソレハ矢張リ政府ハ原案トシテ必要ナリトシテ維持ナサルト云フ御考ニアリマセウカ、念ノタメ御尋イタシテ置キマス

○政府委員(高橋作衛君) 此第二項ニ付キマシテハ立案ノ際ニ色々研究ノ經路ヲ經タモノニ相違ナインデアリマス、去リナガラ此所へ出シマシタ以上ハ是が矢張リ原案デアリマス

○子爵岡部長職君 第十七條「已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り宮内大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得」トアリマス、此條文ニ付キマシテ御尋ヲシタイト思ヒマスガ、其御尋ヲシタイ點ハ債權債務ノ關係デゴザイマスル、假ニ甲ノ者カラシテ債權債務ノ關係上世襲財產以外ノ財產ヨリ債務ヲ果スコトが出來ナイ、依テ其世襲財產ノ一部又ハ全部ヲ解除セムトスルノ申請が出来テ居リマシタコトヲ假定ヲ致シマス、又乙ノ者ヨリモ同様ナル申請が出来テ居シタト假定イタシテ見マスルト、宮内大臣ハ甲乙ノ申請ニ對シテ如何ナル調査ヲナサルコトニ相成リマセウカ、債務債權ノ關係ハ、絕對的ニ申セバ借財ハ其期限ニ至シテ其條件ニ應シテ元利返サネハナラヌト云フコトハ申スマデモナイ話、既ニ其必要ニ迫シテ甲乙共ニ申シ出デタル場合ニハ宮内大臣ハ是ハ絕對的ニ已ムヲ得ザルモノト御認メナサル外ニハ他ニ御調査ノ途ガアルマイト思ハレルノデアリマス、斯ノ如キ場合ニ於テ宮内大臣ハ甲ニ對シテハ已ムヲ得ザル場合ト見テ世襲財產ノ一部又ハ全部ノ解除ヲ認可サレ、又乙ニ對シテハ是ハ已ムヲ得ザル場合ニ非スト云フ認定ヲ下スコトが出來マセウカ、此債權債務ノ關係ニ於テ斯ノ如キ申請が出来マシタル時ハ其取捨ヲスルト云フコトニ付テハ實際ノ問題ト致シテ餘程宮内大臣ノ認定ガムバシイモノデハアリマスマイカト思フ、債務ノ關係デ已ムヲ得ズトシテ申請サレタ時ニハ悉ク宮内大臣ハ矢張リ已ムヲ得ズト認定サレルモノニアルカ、矢張リ其間ニハ十分ニ調査ヲサレテ其緩急ヲ酌量シテ認可ヲ御定メニナル譯アリマスルカ、ソコノ所ヲ御伺ヒシタインデアリマス

○説明員(馬場鑓一君) 唯今ノ御問ハ甲ナル華族ガ世襲財產ノ解除ヲ……一部

又ハ全部ノ廢止ヲ出願シテ、乙ナル華族ガ同ジャウナコトニ付テ出願シタ時ノ御尋ニアリマスガ、ドウモ單ニ債權債務ノ關係ガアルカラ、即チ債務ノ辨済ヲシテナイカラシテ直チニ已ムヲ得ザル事由ナリト宮内大臣が認定スルト云フ趣意テハ申マヌテモナクゴザイマセヌノデ、其世襲財產ノ一部ヲ解除シナケレバナラヌ、其家ヲ立ツテ行キ華族ノ體面ヲ立ツテ行クト云フ上ニ是非トモ已ムヲ得ザルト云フ場合ダケニ限定スル趣意テゴザイマスルカラ、甲乙ノ兩華族が願出テ居リマス場合ニ付テ考ヘマシテモドウモ同ジ狀況デアレバ無論兩様同ジャウニ認可シナケレバナラヌコトデアルト存シマスルガ、其點カラ已ムヲ得ザル事由ト認メマス程度ハ甲乙ニ付テ差異ハナイコト考ヘテ居リマス、一々抽象的ニ申上ゲルコトハ出來マスガ、具體的ノ場合ニ付テドウ云フヤウニスルカト云フコトニ付テハチヨツト御答ハ出來マセヌ

○子爵岡部長職君 尚ホ御尋イタシマスルガ、ソレデアリマスルト、其取捨ノ餘地ト云フモノハ即チ世襲財產以外ノ財產ヲ以テ債務ヲ果サセルト云フ方ノ程度問題ニ關係ス

